

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-341376

(43)Date of publication of application : 03.12.2003

(51)Int.Cl.

B60K 20/02

(21)Application number : 2002-154644

(71)Applicant : YAMAHA MOTOR CO LTD

(22)Date of filing : 28.05.2002

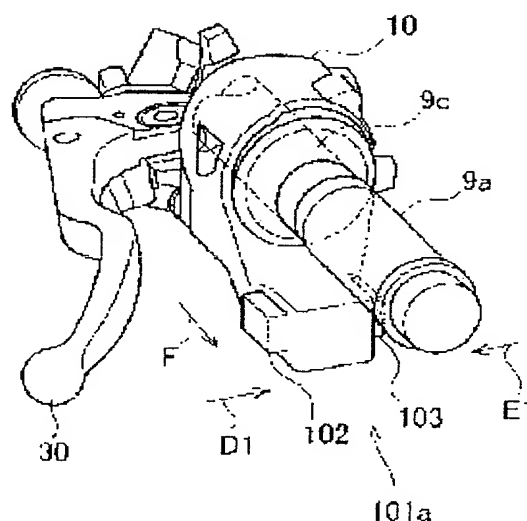
(72)Inventor : KOSUGI MAKOTO
YOSHINO TORU
YAMADA MASAKAZU

(54) GEAR TRANSMISSION CONTROL APPARATUS

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a gear transmission apparatus capable of keeping the safety characteristic of a vehicle body and the safety characteristic of a driver and further being performed rapidly.

SOLUTION: A switch unit 101a has both a shift-up switch 102 operated when the shift-up operation of a transmission gear is carried out and a shift-down switch 103 operated when the transmission gear is shifted down. The switch unit 101a is arranged at an arbitrary position ranging from the lower side to the front side of a handle grip base 9c.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-341376
(P2003-341376A)

(43) 公開日 平成15年12月3日 (2003. 12. 3)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 0 K 20/02

識別記号

F I

B 6 0 K 20/02

テーマコード(参考)

A 3 D 0 4 0

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2002-154644(P2002-154644)

(22) 出願日 平成14年5月28日(2002. 5. 28)

(71) 出願人 000010076

ヤマハ発動機株式会社

静岡県磐田市新貝2500番地

(72) 発明者 小杉 誠

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機
株式会社内

(72) 発明者 善野 徹

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機
株式会社内

(74) 代理人 100083806

弁理士 三好 秀和 (外 7 名)

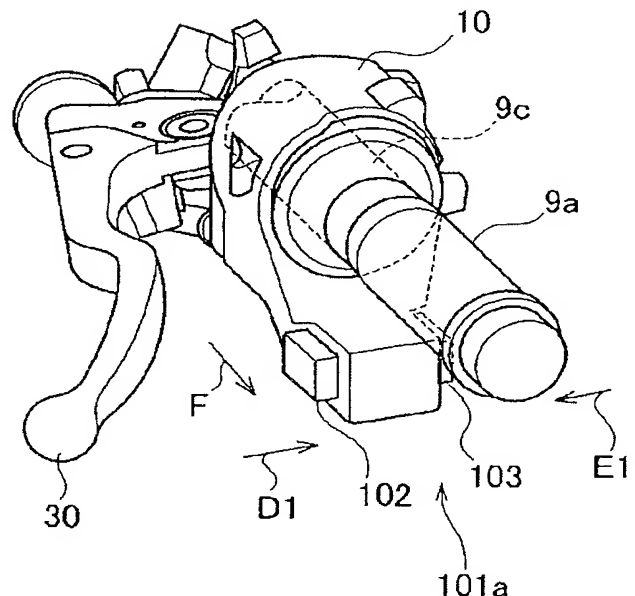
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 変速制御装置

(57) 【要約】

【課題】 車体及び運転者の安定性を維持し、且つ迅速に操作可能な変速制御装置を提供する。

【解決手段】 変速ギヤのシフトアップを行わせる場合に操作されるシフトアップスイッチ102と、変速ギヤのシフトダウンを行わせる場合に操作されるシフトダウンスイッチ103とを有するスイッチ部101aをハンドルグリップ基部9cの下側から前側までの任意の位置へ配置する。



【特許請求の範囲】

1
【請求項 1】 棒状のハンドルにおけるハンドルグリップの基部に設けられたスイッチ部を有し、前記スイッチ部の操作により複数段の変速ギヤを備える多段シフト機構の変速ギヤの切替動作を行うシフトアクチュエータと、前記シフトアクチュエータによる前記変速ギヤの切替動作時にクラッチによるエンジンからの駆動力伝達を断続するクラッチアクチュエータとを制御する変速制御装置であって、前記スイッチ部が前記ハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置へ配置されたことを特徴とする変速制御装置。

【請求項 2】 前記スイッチ部は、前記シフトアクチュエータに前記変速ギヤの切替動作におけるシフトアップを行わせる場合に操作されるシフトアップスイッチと、前記シフトアップスイッチと対向して配置され、前記シフトアクチュエータに前記変速ギヤの切替動作におけるシフトダウンを行わせる場合に操作されるシフトダウンスイッチとを有することを特徴とする請求項 1 に記載の変速制御装置。

【請求項 3】 前記スイッチ部は、第 1 の方向及び第 2 の方向に操作可能であり、前記シフトアクチュエータに前記変速ギヤの切替動作におけるシフトアップを行わせる場合は前記第 1 の方向に操作され、前記シフトアクチュエータに前記変速ギヤの切替動作におけるシフトダウンを行わせる場合は前記第 2 の方向に操作されるシフトスイッチを有することを特徴とする請求項 1 に記載の変速制御装置。

【請求項 4】 前記スイッチ部が操作された場合にのみ前記変速ギヤの切替が行われるセミオートマチックトランスミッション方式と前記スイッチ部が操作されなくとも前記エンジンの回転数に応じて前記変速ギヤの切替が行われるフルオートマチックトランスミッション方式とを前記スイッチ部が所定の時間以上継続して操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の変速制御装置。

【請求項 5】 前記シフトアップスイッチが操作された場合にのみ前記シフトアップが行われるとともに前記シフトダウンスイッチが操作された場合にのみ前記シフトダウンが行われるセミオートマチックトランスミッション方式と前記シフトアップスイッチ及び前記シフトダウンスイッチが操作されなくとも前記エンジンの回転数に応じて前記シフトアップ及び前記シフトダウンを行わせるフルオートマチックトランスミッション方式とを前記シフトアップスイッチ及び前記シフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを特徴とする請求項 2 に記載の変速制御装置。

【請求項 6】 前記スイッチ部が前記ハンドルグリップの長手方向へ突出して配置されたことを特徴する請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の変速制御装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、自動二輪車、原動機付二輪車、及びバギー等の棒状のハンドルを備えた車両（本明細書では、車両とする）の変速ギヤの切替動作と、これに伴うクラッチの駆動力伝達の断続動作を制御する変速制御装置に関する。なお、ここでいう棒状のハンドルには、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが独立したセパレートハンドル、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが一体化されたバーハンドルが含まれる。また、これらのハンドルは全ての部分が直線形状である必要はなく、一部分が湾曲していても良い。

【0002】

【従来の技術】車両の駆動系には各種の変速方式が採用されており、その一つとしては、運転者がクラッチレバーとチェンジペダルを用いて変速ギヤを切り替えるマニュアルトランスミッション方式が挙げられる。

【0003】また、エンジンの回転数等に応じて自動的にシフトアクチュエータが駆動され、変速ギヤの切り替えが行われるフルオートマチックトランスミッション方式が用いられる場合もある。

【0004】また、運転者の指示によりシフトアクチュエータを駆動させ、変速ギヤを切り替えるセミオートマチックトランスミッション方式が用いられる場合もある。

【0005】さらに、変速方式をセミオートマチックトランスミッション方式とフルオートマチックトランスミッション方式から選択することが可能な車種も存在する。

【0006】図 12 に例示するスイッチ部 1000 は、変速ギヤのシフトアップを行う際に操作されるシフトアップスイッチ 1001 と変速ギヤのシフトダウンを行う際に操作されるシフトダウンスイッチ 1002 とを有する。

【0007】このシフトアップスイッチ 1001 及びシフトダウンスイッチ 1002 は、運転者が車両を操作する際に用いるハンドルグリップ 1004 の近傍に位置しており、操作は親指によって行われる。

【0008】また、スイッチ部 1000 は変速方式を選択可能な車種に搭載されることを前提としており、前述のフルオートマチックトランスミッション方式とセミオートマチックトランスミッション方式を選択切替するための変速方式切替スイッチ 1003 を有する。この変速方式切替スイッチ 1003 もハンドル 1004 の近傍に位置し、親指により操作される。

【0009】また、スイッチ部 1000 は、上記のシフ

トアップスイッチ１００１、シフトダウンスイッチ１００２、変速方式方式切替スイッチ１００３の他に、クラクションを動作させるためのクラクションスイッチ１００５と、ウィンカーを動作させるためのウィンカースイッチ１００６とを有する。

【００１０】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のようなスイッチ部１０００には以下の課題が存在する。運転者がハンドルグリップ１００４を握ることにより車体を保持している場合、その親指はＰの位置にあるが、シフトアップスイッチ１００１、シフトダウンスイッチ１００２、変速方式切替スイッチ１００３を操作するには、親指をハンドルグリップ１００４から離し、Ｑ、Ｒ、Ｓの位置まで移動させなくてはならず、スイッチを迅速に操作することが困難である。

【００１１】さらに、ハンドルグリップ１００４を握ることにより車体を保持するには親指により加えられる力が特に重要であり、親指がハンドルグリップ１００４から離れることは、車体及び運転者の安定性を低下させる。この安定性の低下は、悪路では更に顕著になる。

【００１２】このような事情に鑑み、本発明は、車体及び運転者の安定性を維持し、且つ迅速に操作可能な変速制御装置を提供することを目的とする。

【００１３】

【課題を解決するための手段】請求項１に記載の本発明は、棒状のハンドルにおけるハンドルグリップの基部に設けられたスイッチ部を有し、スイッチ部の操作により複数段の変速ギヤを備える多段シフト機構の変速ギヤの切替動作を行うシフトアクチュエータと、シフトアクチュエータによる変速ギヤの切替動作時にクラッチによるエンジンからの駆動力伝達を断続するクラッチアクチュエータとを制御する変速制御装置であって、スイッチ部がハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置へ配置されたことを要旨とする。

【００１４】請求項１に記載の本発明にあつては、スイッチ部がハンドルグリップの基部の下側、ハンドルグリップの基部の前側、及びこれらの間の任意の位置、つまり運転手が親指及び人差指をハンドルグリップから離さずに操作できる位置へ配置される。これにより、運転者はスイッチ部を迅速に操作することができ、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。なお、ここでいう棒状のハンドルには、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが独立したセパレートハンドル、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが一体化されたバーハンドル、一部分が湾曲しているハンドルも含まれ、ハンドルグリップの基部の前側とは、車両の進行方向側、換言すれば車両の運転者とは反対側を指す。

【００１５】請求項２に記載の本発明は、請求項１に記載の発明において、スイッチ部は、シフトアクチュエー

タに変速ギヤの切替動作におけるシフトアップを行わせる場合に操作されるシフトアップスイッチと、シフトアップスイッチと対向して配置され、シフトアクチュエータに変速ギヤの切替動作におけるシフトダウンを行わせる場合に操作されるシフトダウンスイッチとを有することを要旨とする。

【００１６】請求項２に記載の本発明にあつては、ハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置へ配置されるスイッチ部がシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを有する。これにより、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを迅速に操作することができ、さらに、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【００１７】請求項３に記載の本発明は、請求項１に記載の発明において、スイッチ部は、第１の方向及び第２の方向に操作可能であり、シフトアクチュエータに変速ギヤの切替動作におけるシフトアップを行わせる場合は第１の方向に操作され、シフトアクチュエータに変速ギヤの切替動作におけるシフトダウンを行わせる場合は第２の方向に操作されるシフトスイッチを有することを要旨とする。

【００１８】請求項３に記載の本発明にあつては、ハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置へ配置されるスイッチ部がシフトスイッチを有する。これにより、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトスイッチを迅速に操作することができ、さらに、シフトスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【００１９】請求項４に記載の本発明は、請求項１から３のいずれか１項に記載の発明において、スイッチ部が操作された場合にのみ変速ギヤの切替が行われるセミオートマチックトランスミッション方式とスイッチ部が操作されなくともエンジンの回転数に応じて変速ギヤの切替が行われるフルオートマチックトランスミッション方式とをスイッチ部が所定の時間以上継続して操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを要旨とする。

【００２０】請求項４に記載の本発明にあつては、スイッチ部が一定時間以上継続して操作された際に変速方式の切り替えが行う。これにより、運転者は変速方式を切り替える場合においてもハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにスイッチ部を迅速に操作でき、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【００２１】請求項５に記載の本発明は、請求項２に記載の発明において、シフトアップスイッチが操作された場合にのみシフトアップが行われるとともにシフトダウンスイッチが操作された場合にのみシフトダウンが行わ

れるセミオートマチックトランスミッション方式とシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチが操作されなくともエンジンの回転数に応じてシフトアップ及びシフトダウンを行わせるフルオートマチックトランスミッション方式とをシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを要旨とする。請求項 5 に記載の本発明にあっては、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に変速方式の切り替えを行う。これにより、運転者は変速方式を切り替える場合においてもハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを迅速に操作でき、さらに、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0022】請求項 6 に記載の本発明は、請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の発明において、スイッチ部がハンドルグリップの長手方向へ突出して配置されたことを要旨とする。

【0023】請求項 6 に記載の本発明にあっては、スイッチ部がハンドルグリップの長手方向に突出して配置される。これにより、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにスイッチ部を迅速に操作でき、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0024】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しつつ、本発明の変速制御装置について説明する。なお、以下の実施の形態は、あくまでも本発明の説明のためのものであり、本発明の範囲を制限するものではない。したがって、当業者であれば、これらの各要素又は全要素を含んだ各種の実施の形態を採用することが可能であるが、これらの実施の形態も本発明の範囲に含まれる。また、実施の形態を説明するための全図において、同一要素には同一符号を付与し、これに関する反復説明は省略する。

【0025】本発明の変速制御装置は、棒状のハンドルにおけるハンドルグリップの基部に設けられたスイッチ部を有し、スイッチ部の操作により複数段の変速ギヤを備える多段シフト機構の変速ギヤの切替動作を行うシフトアクチュエータと、シフトアクチュエータによる変速ギヤの切替動作時にクラッチによるエンジンからの駆動力伝達を断続するクラッチアクチュエータとを制御するものであり、以降の説明においては、この変速制御装置が自動二輪車に搭載される場合を示す。なお、ここでいう棒状のハンドルには、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが独立したセパレートハンドル、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが一体化されたバーハンドルが含まれる。また、これらのハンドルは全ての部分が直線形状である必要はなく、一部分が湾曲していても良い。

【0026】図 1 は、本発明の変速制御装置が搭載される自動二輪車の構成の一例を説明するための図である。自動二輪車 1 は、車体フレーム 2 がヘッドパイプ 3 に接続された左右一対のタンクレール 4 と、リヤフレーム 5 に接続される構造である。上記のタンクレール 4 の上部には燃料タンク 6 が設けられ、下部にはエンジンユニット（図示せず）が配設される。上記のリヤフレーム 5 の前部にはメインシート 7 が配設される。

【0027】また、上記のヘッドパイプ 3 にはフロントフォーク 8 が枢支されており、フロントフォーク 8 の上端にはハンドル 9 が設けられ、下端には前輪 11 が設けられている。また、ハンドル 9 にはスイッチボックス 10 が設けられている。なお、ハンドル 9 及びスイッチボックス 10 の詳細については後述する。

【0028】また、上記タンクレール 4 の後端下部のリヤアームブラケット 12 には、リヤアーム 13 がピボット軸 14 を介して上下揺動可能に枢支されており、リヤアーム 13 の後端には後輪 22 が配設される。また、リヤアームブラケット 12 には、ステップブラケット 15 が後方に向けて突設されており、運転者の足を掛けるステップ 16 がステップブラケット 15 の車幅方向の外側に向けて設けられている。

【0029】また、上記の車体フレーム 2 にはカウリング 17 が配設される。このカウリング 17 は、ハンドル 9 の前方を覆う上部カウリング 18 と、タンクレール 7 の前方及び左、右側方及びエンジンユニットの左、右下方を覆う下部カウリング 19 とから構成される。

【0030】なお、上記の上部カウリング 18 は、ステー（図示せず）を介して車体フレーム 2 に支持されており、車体前部の前側と左右方向の両側面とが形成される構造を採り、車体前側の上部に透明材からなるスクリーン 20 とヘッドランプ 21 等が取り付けられている。

【0031】また、上記のリヤフレーム 5 にはメインシート 7 の左右側方及び後輪 22 の上方を覆うためのサイドカバー 23 が配設される。また、クランク軸を収容するクランクケース 49 が車幅方向に向けて車体フレーム 2 に懸架支持される。

【0032】また、下部カウリング 19 の内側には、上記のクランク軸と平行に配設された変速装置のメインシャフトとドライブシャフトと複数段の変速ギヤからなる多段シフト機構を収容する変速機ケース（トランスミッション）が一体形成される（図示せず）。このトランスミッションには、変速ギヤ切替時に駆動力伝達を断続させるクラッチが設けられている（図示せず）。なお、これらについての詳細は後述する。

【0033】また、リヤアーム 13 の後端に後輪 22 を軸承する軸部 25 には、ドリブンスプロケット 26 が設けられており、このドリブンスプロケット 26 と、上記のエンジンユニットのドライブシャフトに固着された駆動スプロケット（図示せず）とにチェーン 27 が巻回さ

れる。これにより、エンジン動力がチェーン27を介して後輪22に伝達される。

【0034】さらに、自動二輪車1は、上記の部品の他に、メインシート7の下部といった場所に配置された図示しないECU(Engine Control Unit:エンジン制御装置)を有している。

【0035】図2は、図1の自動二輪車1が有する多段シフト機構及びクラッチ40等の詳細を示す図である。本実施の形態におけるハンドル9は、セパレートハンドルであり、左手により握られるハンドルグリップ9aと、これが取り付けられたハンドルグリップ基部9cと、右手により握られるハンドルグリップ9bと、これが取り付けられたハンドルグリップ基部9dとから構成される。

【0036】ハンドルグリップ9bはアクセルグリップを構成し、スロットル入力ポテンショメータ28が装着され、運転者の意志によるアクセル入力(スロットル開度入力)が検出される。このハンドルグリップ9bの近傍にはブレーキレバー28が配設される。

【0037】また、ハンドルグリップ9aの近傍には前記のスイッチボックス10が備わる。このスイッチボックス10は、クラクションスイッチ及びウィンカースイッチ等(共に図示せず)を有し、ハンドル9aを囲む形状となっている。また、スイッチボックス10の近傍にはクラッチレバー30が配設される。

【0038】また、スイッチ部101aは変速ギヤのシフトアップ及びシフトダウンを行わせるためのものであるが、これの詳細については後述する。

【0039】また、本実施の形態における自動二輪車1は、クラッチレバー30を有する場合は示したが、これは、前述のセミオートマチックトランスミッション方式、フルオートマチックトランスミッション方式の他に、マニュアルトランスミッション方式により変速ギヤの切替を行うことを想定しているためである。また、ハンドル9の近傍には、現在の変速ギヤのシフト位置を表示するモニタ(インジケータ)部31が備わる。

【0040】また、気化器下流側の吸気通路(図示せず)を構成するスロットル32にはスロットル弁33が装着される。スロットル弁33の弁軸34の端部にスロットルを駆動させるためのスロットルアクチュエータ35が設けられるとともに、その反対側の端部にスロットルの開度を測定するためのスロットル開度センサ36が設けられている。この弁軸34に装着されたスロットルアクチュエータ35及びスロットル開度センサ36によりスロットルを開閉駆動するDBW(Drive By Wire)37が構成される。DBW37は、スロットルアクチュエータ35を運転状態に応じて所定のプログラムあるいはマップにしたがって駆動制御する。DBW37は、シフトダウン時には一旦エンジン回転を高め、シフトアップ時には一旦エンジン回転を低下させるようにスロット

ル弁33を開閉動作させて、変速ギヤの切替を円滑に行わせる。

【0041】また、エンジン(図示せず)のクランクシャフト38の端部にはエンジンの回転数を測定するためのエンジン回転数センサ39が装着される。クランクシャフト38は、多板式のクラッチ40を介してメインシャフト41に連結される。メインシャフト41には、多段(本実施の形態では6段)の変速ギヤ群42が装着されるときともにメインシャフトの回転数を測定するためのメインシャフト回転数センサ43が設けられる。メインシャフト41上に位置する変速ギヤ群42の各変速ギヤは、これに対応してドライブシャフト44上に配置された変速ギヤ群45と噛合している(本図では分離した状態で示している)。これらの変速ギヤ群42及び45の内、選択された変速ギヤ以外は、メインシャフト41又はドライブシャフト44に対し遊転状態で配置される。したがって、メインシャフト41からドライブシャフト44への駆動力伝達は選択された一対の変速ギヤのみを介して行われる。

【0042】また、変速ギヤ群42及び45における変速ギヤ切替はシフト入力軸であるシフトカム46により行われる。シフトカム46は、複数の(本実施の形態では3本の)カム溝47を有し、各カム溝47にシフトフォーク48が接続される。各シフトフォーク48は、それぞれメインシャフト41及びドライブシャフト44上の変速ギヤ群42及び45に係合している。シフトカム46の回転により、シフトフォーク48がカム溝47に沿って移動し、シフトカム46の回転角度に応じた位置の一対の変速ギヤのみがメインシャフト41及びドライブシャフト44に対して、それぞれの表面に設けられたスプラインにより固定される。このようにして駆動力伝達が行われ、変速ギヤの位置が定まる。これらの変速ギヤ群42、45、及びシフトカム46により多段シフト機構が構成される。

【0043】このような多段シフト機構及び前述のクラッチ40は、共に油圧機構により駆動される。この油圧機構は、モータ49により駆動されるポンプ50、オイルタンク51、及びアキュムレータ52により構成される。アキュムレータ52から一定の圧力を有するオイルがクラッチ40を駆動させるためのクラッチアクチュエータ53と、シフトフォーク48を駆動させるためのシフトアクチュエータ54に供給され、クラッチ40及びシフトカム46が所定のシーケンスにしたがって駆動され、オイルはオイルタンク51に戻される。

【0044】クラッチアクチュエータ53にはクラッチ40のストローク位置を検出するストロークセンサ55が設けられる。また、ドライブシャフト44には車速を測定するための車速センサ56が設けられ、シフトカム46にはシフトポジションを検出するためのシフトポジションセンサ57が設けられる。

【0045】本発明の変速制御装置は、ECU 64内に設けられた各機能部と前記のスイッチ部101aとからなり、前記の多段シフト機構及びクラッチ40による変速ギヤの切替動作とクラッチによるドライブシャフト44への駆動力伝達の断続動作を制御する。なお、各機能部の詳細については後述する。

【0046】スイッチ部101aが運転者により操作されると、ECU 64内の各機能部は、前述のセンサ及びその他各種センサの検出データに基づき、シフト位置の入力指令に応じて、クラッチアクチュエータ53及びシフトアクチュエータ54を動作させ、クラッチ切断、変速ギヤ切替、及びクラッチ接続の一連の動作を内部に格納した所定のプログラムやマップ、その他演算回路により自動的に行う。

【0047】より具体的には、クラッチ40の動作については、クラッチアクチュエータ53を駆動させることによりロッド58を矢印Aのように往復動作させ、レバー59を矢印Bのように回転させ、これによりピニオン60を回転させ、これに噛合うラック61を往復動作させる。これによりクラッチ40がラック61の移動方向に応じて接続または切断され、エンジンからメインシャフト41への駆動力の伝達が断続される。

【0048】このように、クラッチレバーによらず、クラッチアクチュエータ53によりクラッチを動作させることにより、運転者によるクラッチ操作が不要になり疲労が軽減される。

【0049】また、変速ギヤの切替については、ECU 64内の各機能部がシフトアクチュエータ54を駆動させることによりロッド62を矢印Cのように往復動作させ、リンク機構63を介してシフトカム46を所定角度回転させる。これによりカム溝47に沿ってシフトフォーク48が所定量だけ軸方向に移動し、変速ギヤ群42及び45が有する1速から6速までの変速ギヤを順番にメインシャフト41及びドライブシャフト44に固定して各減速比に基づいて駆動力を伝達する。

【0050】図3は、図1のスイッチ部101aの詳細を示す斜視図である。スイッチ部101aは、運転者が親指及び人差指で操作可能のようにハンドルグリップ基部9cの下側に配置され、ハンドルグリップ9aの長手方向（矢印Fの方向）に突出している。

【0051】また、運転者の親指により矢印D1の方向に操作されるシフトアップスイッチ102と、シフトアップスイッチ102の反対側に位置し、人差指により矢印E1の方向に操作されるシフトダウンスイッチ103とを有する。

【0052】スイッチ101aを上記のような構成とすることにより、運転者はハンドルグリップ9aを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ102及びシフトダウンスイッチ103を迅速に操作することができ、さらに、前述の車体や運転者の安定性の低

下を防止できる。

【0053】なお、シフトアップスイッチ102及びシフトアップスイッチ103は、操作が終了、つまり指により力が加えられなくなると、操作される前の状態に復帰する機能を有する。

【0054】また、本図においては、矢印D1の方向の操作されるスイッチをシフトアップスイッチ102とし、矢印E1の方向に操作されるスイッチをシフトダウンスイッチ103とする場合を示したが、これに限定されず、矢印D1の方向に操作されるスイッチをシフトダウンスイッチとし、矢印E1の方向に操作されるスイッチをシフトアップスイッチとすることもできる。このようなスイッチの機能変更は運転者が自由に行うことができる。

【0055】また、本図においては、スイッチ部101aがスイッチボックス10と一体化されている場合を示しているがこれに限定されず、それぞれが独立した構成とすることもできる。

【0056】図4は、本発明の変速制御装置100の構成を示すブロック図である。変速制御装置100は、前述のシフトアップスイッチ102及びシフトダウンスイッチ103を備えるスイッチ部101aの他に、図2のECU 64の内部に設けられた前述の機能部としての制御部65、シフトアップ信号送信部66、及びシフトダウン信号送信部67とを有する。

【0057】制御部65は、シフトアップスイッチ102又はシフトダウンスイッチ103が操作されると、これを検知し、併せてその操作時間の測定も行い、この検知・測定結果に基づいてシフトアップ信号送信部66又はシフトダウン信号送信部67を制御し、動作を行わせる。

【0058】また、制御部65は、請求項に記載の変速方式切替部として機能し、シフトアップスイッチ102又はシフトダウンスイッチ103が所定の時間以上操作されると、これを検知・測定し、前述のフルオートマチックトランスミッション方式とセミオートマチックトランスミッション方式とを切り替える。

【0059】なお、シフトアップスイッチ102又はシフトダウンスイッチ103の所定操作時間は、運転者等により自由に設定可能であり、設定された値は制御部65に記憶される。

【0060】また、シフトアップスイッチ102及びシフトダウンスイッチ103の両方が同時に操作された際に変速方式の切替を行う構成とすることもできる。

【0061】また、以降のシフトアップ信号送信部66及びシフトダウン信号送信部67に関する説明は、変速にセミオートマチックトランスミッション方式が用いられることを前提にして行う。

【0062】シフトアップ信号送信部66は、シフトアップスイッチ102が操作されると、これを検知した制

御部 65 の指示を受け、前述のクラッチアクチュエータ 53 を制御してクラッチ 40 に駆動力伝達の断続動作を行わせるとともに、前述のシフトアクチュエータ 54 にシフトアップを行わせるためのシフトアップ信号を送信する。

【0063】シフトダウン信号送信部 67 は、シフトダウンスイッチ 103 が操作されると、これを検知した制御部 65 の指示を受け、前述のクラッチアクチュエータ 53 を制御してクラッチ 40 に駆動力伝達の断続動作を行わせるとともに、シフトアクチュエータ 54 にシフト

ダウンを行わせるためのシフトダウン信号を送信する。

【0064】なお、フルオートマチックトランスミッション方式を用いて変速が行われる場合は、シフトアップスイッチ 102 及びシフトダウンスイッチ 103 が操作されなくとも制御部 65 がエンジンの回転数を計測し、これに応じてシフトアップ信号送信部 66 及びシフトダウン信号送信部 67 を適宜動作させる。

【0065】また、本図においては、変速制御装置 100 が ECU 64 の内部に設けられている場合を示したが、これに限定されず、ECU 64 の外部に設けること

もできる。

【0066】図 5 は、本発明の第 2 の実施の形態にかかるスイッチ部 101b を示す斜視図である。図 1 のスイッチ部 101a は、其々が独立したシフトアップスイッチ 102 とシフトダウンスイッチ 103 を有するが、これらに代えて、第 1 の方向及び第 2 の方向に操作可能なスイッチを有する構成とすることもできる。スイッチ部 101b は、この一例であり、回転式のシフトスイッチ 104 を有する。

【0067】このシフトスイッチ 104 は、ハンドルグリップ基部 9c の下側に配置され、ハンドルグリップ 9a の長手方向（矢印 G の方向）に突出しており、人差指により操作されるとハンドル 9a の中心線 H-I を軸に矢印 J の方向に回転し、親指により操作されると中心線 H-I を中心に矢印 K の方向に回転する。この際の回転開始点及び最大回転角は運転者等が自由に設定可能である。

【0068】また、シフトスイッチ 104 は、操作が終了、つまり指により力が加えられなくなると、操作される前の状態に復帰する機能を有する。

【0069】シフトスイッチ 104 が矢印 J の方向に操作された場合は、図 3 のシフトアップスイッチ 102 が操作された場合と同様に図 4 のシフトアップ信号送信部 66 によりシフトアップ信号が送信され、駆動力伝達の断続動作及びシフトアップが行われる。

【0070】また、シフトスイッチ 104 が矢印 K の方向に操作された場合は、図 1 のシフトダウンスイッチ 103 が操作された場合と同様に図 4 のシフトダウン信号送信部 67 によりシフトダウン信号が送信され、駆動力伝達の断続動作及びシフトダウンが行われる。

【0071】また、シフトスイッチ 104 が矢印 J 又は K の方向に所定の時間以上操作された場合、シフトアップスイッチ 102 又はシフトダウンスイッチ 103 が所定の時間以上操作された場合と同様に図 4 の制御部 65 によりフルオートマチックトランスミッション方式とセミオートマチックトランスミッション方式の切替が行われる。

【0072】なお、シフトスイッチ 104 の所定操作時間は、運転者等により自由に設定可能であり、設定された値は制御部 65 に記憶される。

【0073】また、本図においては、シフトスイッチ 104 が矢印 J の方向の操作されるとシフトアップが行われ、矢印 K の方向に操作されるとシフトダウンが行われる場合を示したが、これに限定されず、矢印 J の方向に操作されるとシフトダウンが行われ、矢印 K の方向に操作されるとシフトアップが行われるよう設定を変更することもできる。このような設定変更は運転者が自由に行うことができる。

【0074】このようなスイッチ部 101b は、前述のとおりハンドルグリップ基部 9c の下側に位置し、ハンドルグリップ 9a の長手方向へ突出しているため、運転者はハンドルグリップ 9a を握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトスイッチ 104 を迅速に操作することができ、さらに、前述の車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0075】また、本図においては、スイッチ部 101b がスイッチボックス 10 と一体化されている場合を示しているがこれに限定されず、それぞれが独立した構成とすることもできる。

【0076】図 6 は、本発明の第 3 の実施の形態にかかるスイッチ部 101c を示す斜視図である。スイッチ部 101c は、図 3 に示したスイッチ部 101b に変更を加えたものであり、図 3 のシフトスイッチ 104 とは回転方向が異なるシフトスイッチ 105 を有する。

【0077】このシフトスイッチ 105 は、ハンドルグリップ基部 9c の下側に配置され、ハンドルグリップ 9a の長手方向（矢印 G の方向）に突出しており、人差指により操作されるとハンドルグリップ 9a の中心線 H-I に対する垂直線 L-M を軸に矢印 N の方向に回転し、親指により操作されると垂直線 H-I を中心に矢印 O の方向に回転する。この際の回転開始点及び最大回転角は運転者等が自由に設定可能である。

【0078】また、シフトスイッチ 105 は、操作が終了、つまり指により力が加えられなくなると、操作される前の状態に復帰する機能を有する。

【0079】シフトスイッチ 105 が矢印 N の方向に操作された場合は、図 3 のシフトアップスイッチ 102 が操作された場合と同様に図 4 のシフトアップ信号送信部 66 によりシフトアップ信号が送信され、駆動力伝達の断続動作及びシフトアップが行われる。

【0080】また、シフトスイッチ105が矢印Oの方向に操作された場合は、図3のシフトダウンスイッチ103が操作された場合と同様に図4のシフトダウン信号送信部67によりシフトダウン信号が送信され、駆動力伝達の断続動作及びシフトダウンが行われる。

【0081】また、シフトスイッチ105が矢印N又はOの方向に所定の時間以上操作された場合、シフトアップスイッチ102又はシフトダウンスイッチ103が所定の時間以上操作された場合と同様に図4の制御部65によりフルオートマチックトランスミッション方式とセミオートマチックトランスミッション方式の切替が行われる。

【0082】なお、シフトスイッチ105の所定操作時間は、運転者等により自由に設定可能であり、設定された値は制御部65に記憶される。

【0083】また、本図においては、シフトスイッチ105が矢印Nの方向の操作されるとシフトアップが行われ、矢印Oの方向に操作されるとシフトダウンが行われる場合を示したが、これに限定されず、矢印Nの方向に操作されるとシフトダウンが行われ、矢印Oの方向に操作されるとシフトアップが行われるよう設定を変更することもできる。このような設定変更は運転者が自由に行うことができる。

【0084】このようなスイッチ部101cは、前述のとおりハンドルグリップ基部9cの下側に位置し、ハンドルグリップ9aの長手方向へ突出しているため、運転者はハンドルグリップ9aを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトスイッチ104を迅速に操作することができ、さらに、前述の車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0085】また、本図においては、スイッチ部101cがスイッチボックス10と一体化されている場合を示しているがこれに限定されず、それぞれが独立した構成とすることもできる。

【0086】また、図5及び図6では回転式のシフトスイッチを有する場合を示したが、これに限定されず、スライド式のスイッチを有する構成とすることもできる。

【0087】図7は、本発明の第4の実施の形態にかかるスイッチ部101dを示す斜視図である。図3においては、スイッチ部101aがハンドルグリップ基部9cの下側に配置されている場合を示したが、これに変更を加え、スイッチ部を親指及び人差指で操作可能なようにハンドルグリップ基部9cの下側から前側（自動二輪車の進行方向側、換言すれば自動二輪車の運転者とは反対側）までの任意の位置に配置した場合においても、スイッチ部101aと同様の効果を奏することができる。

【0088】スイッチ部101dは、ハンドルグリップの前側（本実施の形態においてはハンドルグリップ30に並行した位置）に配置され、人差指により矢印D2の方向に操作されるシフトアップスイッチ102と、親指

により矢印E2の方向に操作されるシフトダウンスイッチ103とを有する。

【0089】このようなスイッチ部101dは、特にアメリカンタイプの自動二輪車のようなハンドルの位置が高い車種に適している。

【0090】なお、本図においては、矢印D2の方向の操作されるスイッチをシフトアップスイッチ102とし、矢印E2の方向に操作されるスイッチをシフトダウンスイッチ103とする場合を示したが、これに限定されず、矢印D2の方向に操作されるスイッチをシフトダウンスイッチとし、矢印E2の方向に操作されるスイッチをシフトアップスイッチとすることもできる。このようなスイッチの機能変更は運転者が自由に行うことができる。

【0091】また、スイッチ部101dとスイッチ部101aとの差異は、シフトアップスイッチ102及びシフトダウンスイッチ103の位置のみであり、機能、作用、効果等は、スイッチ部101aと同様である。

【0092】また、本図においては、スイッチ部101dがスイッチボックス10と一体化されている場合を示しているがこれに限定されず、それぞれが独立した構成とすることもできる。

【0093】図8は、本発明の第5の実施の形態にかかるスイッチ部101eを示す斜視図である。図3においては、ハンドルグリップ基部9cの下側に配置されたスイッチ部101aを示し、図5においては、ハンドルグリップ基部9cの前側に配置されたスイッチ部101dを示したが、スイッチ部101eは、親指及び人差指で操作可能なようにハンドルグリップ基部9cの下側から前側までの任意の位置としてハンドルグリップ基部9cの斜め下に配置され、人差指により矢印D3の方向に操作されるシフトアップスイッチ102と、親指により矢印E3の方向に操作されるシフトダウンスイッチ103とを有する。

【0094】このようなスイッチ部101eは、特にヨーロッパタイプの自動二輪車のようなハンドルの位置が低い車種に適している。

【0095】なお、本図においては、矢印D3の方向の操作されるスイッチをシフトアップスイッチ102とし、矢印E3の方向に操作されるスイッチをシフトダウンスイッチ103とする場合を示したが、これに限定されず、矢印D3の方向に操作されるスイッチをシフトダウンスイッチとし、矢印E3の方向に操作されるスイッチをシフトアップスイッチとすることもできる。このようなスイッチの機能変更は運転者が自由に行うことができる。

【0096】また、スイッチ部101eとスイッチ部101a及び101dとの差異は、シフトアップスイッチ102及びシフトダウンスイッチ103の位置のみであり、機能、作用、効果等は、スイッチ部101a及び1

01dと同様である。

【0097】また、本図においては、スイッチ部101eがスイッチボックス10と一体化されている場合を示しているがこれに限定されず、それぞれが独立した構成とすることもできる。

【0098】また、図5のスイッチ部101bと図6のスイッチ部101cもハンドルグリップ基部9cの下側だけでなく、ハンドルグリップ基部9cの前側までの任意の位置に配置可能であり、前述の場合と同様の効果を奏することができる。

【0099】図9は、本発明の第6の実施の形態にかかるスイッチ部101fを示す斜視図である。図3、及び図5から図8に示したスイッチ部101a、101b、101c、101d、及び101eの全ては、ハンドルグリップ9aの長手方向へ突出していたが、これらのスイッチ部に変更を加え、ハンドルグリップ9aの長手方向へ突出していない形状とした場合においても、スイッチ部101a、101b、101c、101d、及び101eと同様の効果を奏することができる。この場合をスイッチ部101fを例として示す。

【0100】スイッチ部101fは、図6に示したスイッチ部101cが有するシフトスイッチ105の突出部を廃したシフトスイッチ106を有する。このシフトスイッチ106とシフトスイッチ105との差異は上記の点のみであり、機能、作用、効果等はシフトスイッチ105と同様である。

【0101】また、本図においては、スイッチ部101fがスイッチボックス10と一体化されている場合を示しているがこれに限定されず、それぞれが独立した構成とすることもできる。

【0102】図10は、図4に示した変速制御装置100の動作を示すフローチャートである。図3、図7、及び図8に示したシフトアップスイッチ102とシフトダウンスイッチ103の両方が同時に操作された場合（ステップS1a；Yes）、図4の制御部65は、これを検知し、現時点で選択されている変速方式を確認する（ステップS2a）。セミオートマチックトランスミッション方式が選択されている場合（ステップS2a；セミオートマチックトランスミッション）、フルオートマチックトランスミッション方式に切り替えられ（ステップS3a）、動作が終了する。

【0103】また、フルオートマチックトランスミッション方式が選択されている場合（ステップS2a；フルオートマチックトランスミッション）、セミオートマチックトランスミッション方式に切り替えられ（ステップS4a）、動作は終了する。

【0104】一方、シフトアップスイッチ102とシフトダウンスイッチ103の両方が同時に操作されずに片方のみが操作され（ステップS1a；No）、この際に操作されたスイッチがシフトアップスイッチ102で

あった場合（S5a；シフトアップスイッチ）、制御部65により現時点で選択されている変速方式が確認され（ステップS6a）、これがセミオートマチックトランスミッションであれば（ステップS6a；セミオートマチックトランスミッション）、図4のシフトアップ信号送信部66によりシフトアップ信号が送信される。これにより、駆動力伝達の断続動作及びシフトアップが行われ（ステップS7a）、動作が終了する。

【0105】また、ステップS6aにおける変速方式の確認結果がフルオートマチックトランスミッションである場合（ステップS6a；フルオートマチックトランスミッション）、駆動力伝達の断続動作及びシフトアップは行われずに動作が終了する。

【0106】また、シフトアップスイッチ102とシフトダウンスイッチ103の両方が同時に操作されずに片方のみが操作され（ステップS1a；No）、この際に操作されたスイッチがシフトダウンスイッチ103であった場合（S5a；シフトダウンスイッチ）、制御部65により現時点で選択されている変速方式が確認され（ステップS8a）、これがセミオートマチックトランスミッションであれば（ステップS8a；セミオートマチックトランスミッション）、図4のシフトダウン信号送信部67によりシフトダウン信号が送信される。これにより、駆動力伝達の断続動作及びシフトダウンが行われ（ステップS9a）、動作が終了する。

【0107】また、ステップS8aにおける変速方式の確認結果がフルオートマチックトランスミッションである場合（ステップS8a；フルオートマチックトランスミッション）、駆動力伝達の断続動作及びシフトダウンは行われずに動作が終了する。

【0108】なお、本図においては、ステップS6a及びステップS8aにおける変速方式の確認結果がフルオートマチックトランスミッションである場合は動作を終了する場合を示したが、これに限定されず、フルオートマチックトランスミッションにより変速が行われている場合であっても動作を終了せずに駆動力伝達の断続動作、シフトアップ、シフトダウンを行わせる構成とすることもできる。

【0109】図10においては、図3、図7、及び図8で示したスイッチ部101a、101d、及び101eのシフトアップスイッチ102及びシフトダウンスイッチ103の両方が同時に操作された際に変速方式の切替が行われる場合を示したが、図11においては、シフトアップスイッチ102又はシフトダウンスイッチ103が所定の時間以上操作された際に変速方式の切替が行われる場合を示す。

【0110】シフトアップスイッチ102又はシフトダウンスイッチ103が所定の時間以上操作された場合（ステップS1b；Yes）、図4の制御部65は、これを検知・測定し、現時点で選択されている変速方式を

確認する（ステップ S 2 b）。セミオートマチックトランスミッション方式が選択されている場合（ステップ S 2 b；セミオートマチックトランスミッション）、フルオートマチックトランスミッション方式に切り替えられ（ステップ S 3 b）、動作が終了する。

【0111】また、フルオートマチックトランスミッション方式が選択されている場合（ステップ S 2 b；フルオートマチックトランスミッション）、セミオートマチックトランスミッション方式に切り替えられ（ステップ S 4 b）、動作は終了する。

【0112】一方、シフトアップスイッチ 102 又はシフトダウンスイッチ 103 が所定の時間以上操作されず（ステップ S 1 b；No）、この際に操作されたスイッチがシフトアップスイッチ 102 であった場合（S 5 b；シフトアップスイッチ）、制御部 65 により現時点で選択されている変速方式が確認され（ステップ S 6 b）、これがセミオートマチックトランスミッションであれば（ステップ S 6 b；セミオートマチックトランスミッション）、図 4 のシフトアップ信号送信部 66 によりシフトアップ信号が送信される。これにより、駆動力伝達の断続動作及びシフトアップが行われ（ステップ S 7 b）、動作が終了する。

【0113】また、ステップ S 6 a における変速方式の確認結果がフルオートマチックトランスミッションである場合（ステップ S 6 b；フルオートマチックトランスミッション）、駆動力伝達の断続動作及びシフトアップは行われずに動作が終了する。

【0114】また、シフトアップスイッチ 102 又はシフトダウンスイッチ 103 が所定の時間以上操作されず（ステップ S 1 b；No）、この際に操作されたスイッチがシフトダウンスイッチ 103 であった場合（S 5 b；シフトダウンスイッチ）、制御部 65 により現時点で選択されている変速方式が確認され（ステップ S 8 b）、これがセミオートマチックトランスミッションであれば（ステップ S 8 b；セミオートマチックトランスミッション）、図 4 のシフトダウン信号送信部 67 によりシフトダウン信号が送信される。これにより、駆動力伝達の断続動作及びシフトダウンが行われ（ステップ S 9 b）、動作が終了する。

【0115】また、ステップ S 8 b における変速方式の確認結果がフルオートマチックトランスミッションである場合（ステップ S 8 b；フルオートマチックトランスミッション）、駆動力伝達の断続動作及びシフトダウンは行われずに動作が終了する。

【0116】なお、本図においては、ステップ S 6 b 及びステップ S 8 b における変速方式の確認結果がフルオートマチックトランスミッションである場合は動作を終了する場合は示したが、これに限定されず、フルオートマチックトランスミッションにより変速が行われている場合であっても動作を終了せずに駆動力伝達の断続動

作、シフトアップ、シフトダウンを行わせる構成とすることもできる。

【0117】また、変速制御装置 100 がスイッチ部 101 a、101 d、101 e に代えて図 3 のスイッチ部 101 b、図 4 のスイッチ部 101 c、図 7 のスイッチ部 101 f のいずれかを備える場合、図 8 のステップ S 5 a においてはスイッチ部 101 b のシフトスイッチ 104、スイッチ部 101 c のシフトスイッチ 105、スイッチ部 1 f のシフトスイッチ 106 の操作方向が確認され、これにより、ステップ S 6 a とステップ S 8 a のどちらの処理を行うかが決定される。また、図 11 のステップ S 5 b においてはシフトスイッチ 104、105、106 の操作方向が確認され、確認結果に基づいてステップ S 6 b とステップ S 8 b のどちらの処理を行うかが決定される。

【0118】

【発明の効果】上記のとおり本発明の変速制御装置は、スイッチ部をハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置、つまり運転手が親指及び人差指をハンドルグリップから離さずに操作できる位置へ配置するため、運転者はスイッチ部を迅速に操作することができ、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0119】また、上記のスイッチ部はシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを有するため、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを迅速に操作することができ、さらに、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0120】また、上記のスイッチ部が第 1 方向及び第 2 方向に移動可能なシフトスイッチを有するため、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトスイッチを迅速に操作することができ、さらに、シフトスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0121】また、上記のスイッチ部が一定時間以上継続して操作された際に変速方式の切り替えを行うため、運転者は変速方式を切り替える場合においてもハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにスイッチ部を迅速に操作でき、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0122】また、上記のシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に変速方式の切り替えを行うため、運転者は変速方式を切り替える場合においてもハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを迅速に操作でき、さらに、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0123】また、スイッチ部がハンドルグリップの長手方向に突出して配置されるため、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差し指を離さずにスイッチ部を迅速に操作でき、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【0124】以上の点から、車体及び運転者の安定性を維持し、且つ迅速に操作可能な変速制御装置を提供することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の変速制御装置が搭載される自動二輪車の構成の一例を示す図である。

【図2】図1の自動二輪車が有する多段シフト機構及びクラッチ40の詳細を示す図である。

【図3】本発明の第1の実施の形態にかかる変速制御装置が有するスイッチ部を示す斜視図である。

【図4】本発明の変速制御装置の構成を示すブロック図である。

【図5】本発明の第2の実施の形態にかかるスイッチ部を示す斜視図である。

【図6】本発明の第3の実施の形態にかかるスイッチ部を示す斜視図である。

【図7】本発明の第4の実施の形態にかかるスイッチ部を示す斜視図である。

【図8】本発明の第5の実施の形態にかかるスイッチ部を示す斜視図である。

【図9】本発明の第6の実施の形態にかかるスイッチ部を示す斜視図である。

【図10】図4の変速制御装置の動作を示すフローチャートである。

ートである。

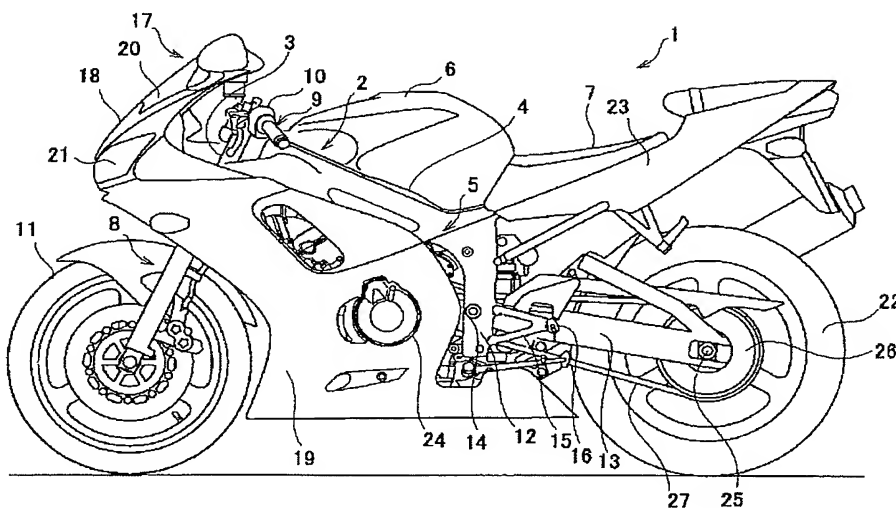
【図11】図4の変速制御装置の動作を示すフローチャートである。

【図12】従来のスイッチ部の一例を示す斜視図である。

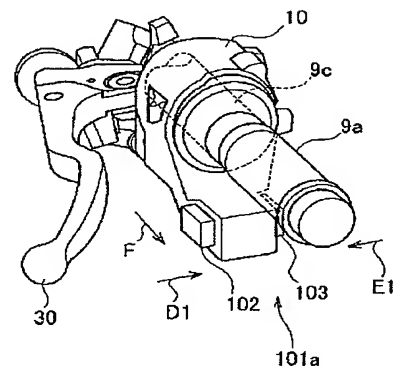
【符号の説明】

- 1 自動二輪車
- 9 ハンドル
- 9a、9b ハンドルグリップ
- 9c、9d ハンドルグリップ基部
- 10 スwitchボックス
- 40 クラッチ
- 42 変速ギヤ群
- 45 変速ギヤ群
- 53 クラッチアクチュエータ
- 54 シフトアクチュエータ
- 55 ストロークセンサ
- 64 ECU
- 65 制御部
- 66 シフトアップ信号送信部
- 67 シフトダウン信号送信部
- 100 変速制御装置
- 101a、101b、101c、101d、101e、101f スwitch部
- 102 シフトアップスswitch
- 103 シフトダウンスswitch
- 104、105、106 シフトスswitch

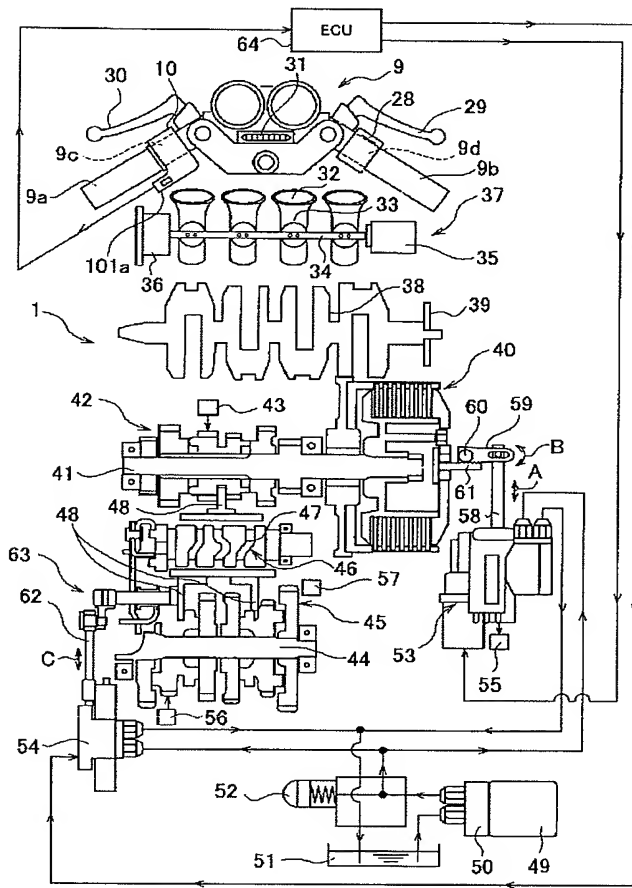
【図1】



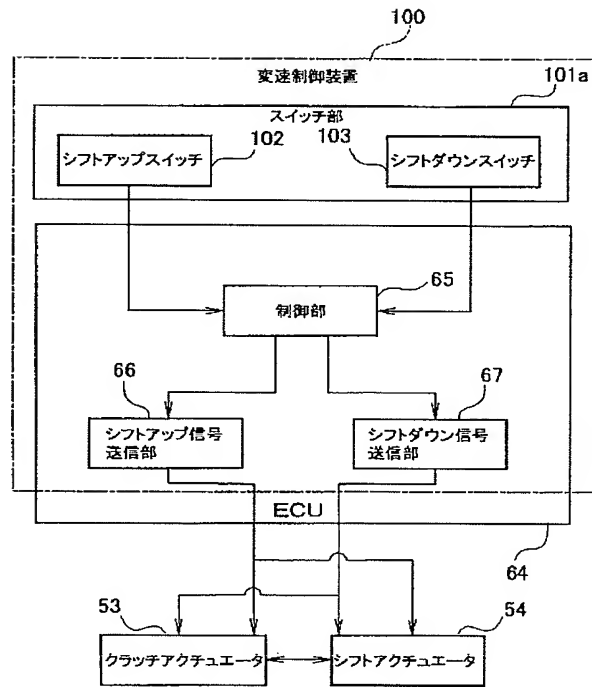
【図3】



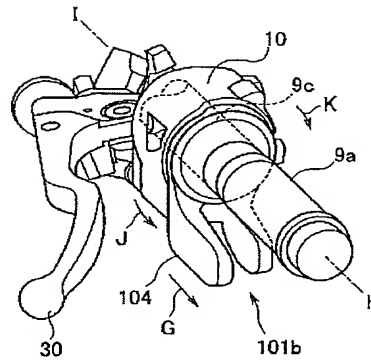
【図2】



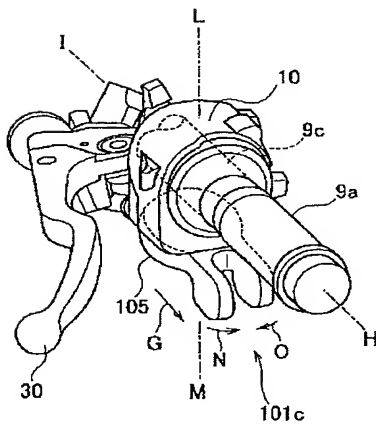
【図4】



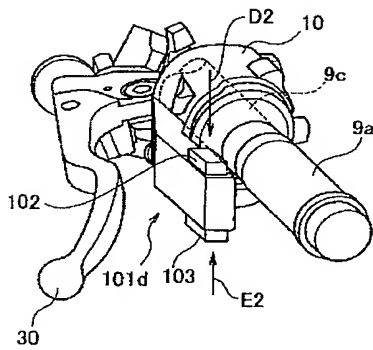
【図5】



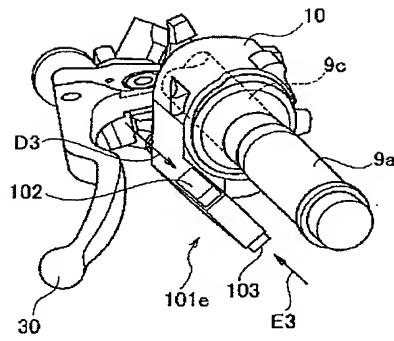
【図6】



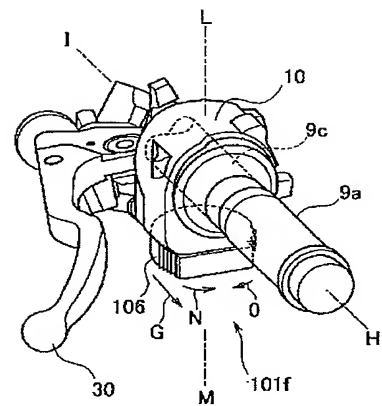
【図7】



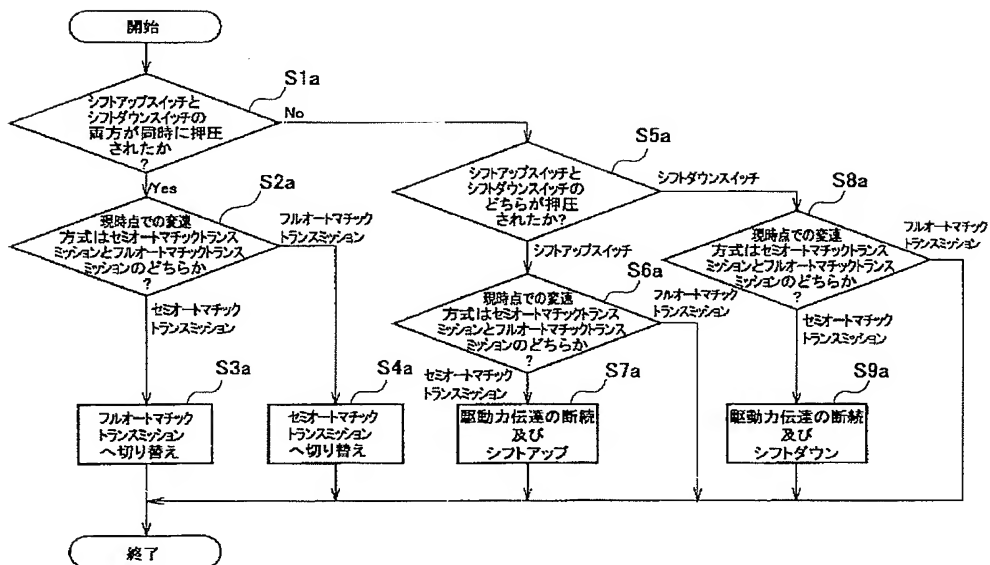
【図8】



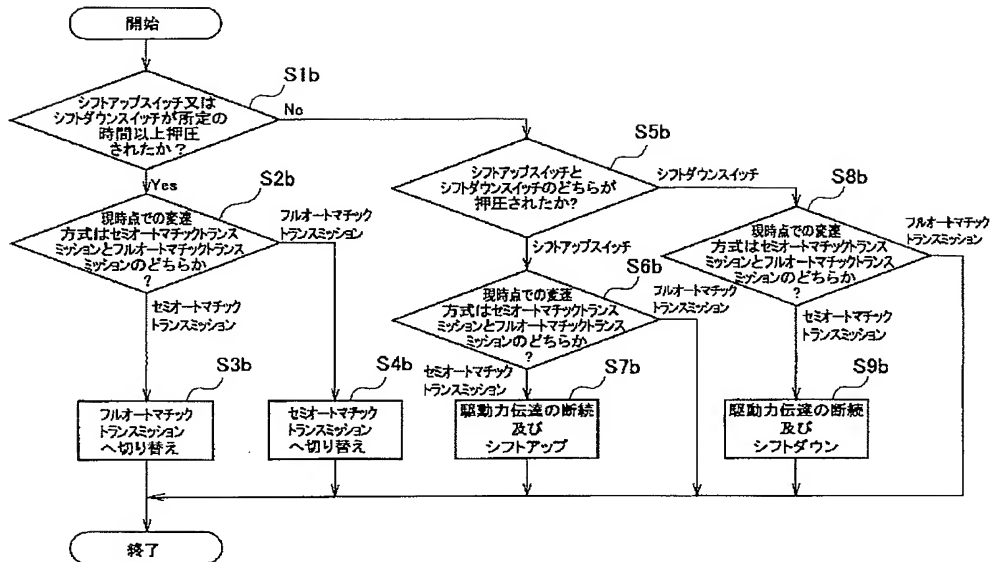
【図9】



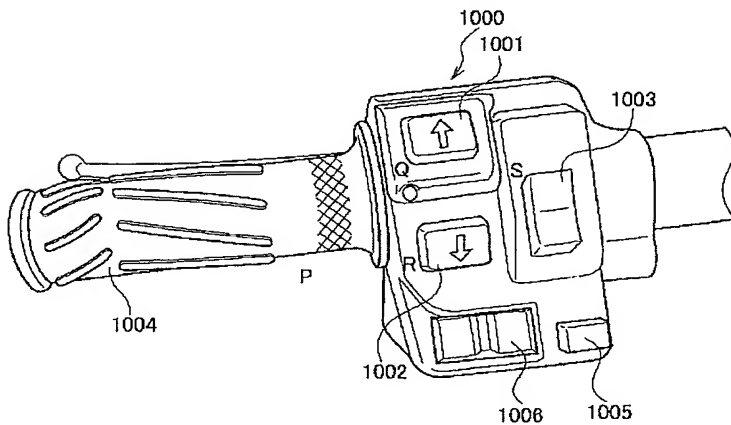
【図10】



【図11】



【図12】



フロントページの続き

(72)発明者 山田 雅一
静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機
株式会社内

Fターム(参考) 3D040 AA02 AA22 AA34 AB10 AC02
AD16 AF07

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】 第 2 部門第 5 区分

【発行日】 平成 17 年 4 月 28 日 (2005.4.28)

【公開番号】 特開 2003-341376 (P2003-341376A)

【公開日】 平成 15 年 12 月 3 日 (2003.12.3)

【出願番号】 特願 2002-154644 (P2002-154644)

【国際特許分類第 7 版】

B 6 0 K 20/02

【 F I 】

B 6 0 K 20/02 A

【手続補正書】

【提出日】 平成 16 年 6 月 16 日 (2004.6.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 特許請求の範囲

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アクチュエータを制御することによって、複数段の変速ギヤを備える多段シフト機構の変速ギヤの切替と、前記変速ギヤの切替時にクラッチによるエンジンからの駆動力伝達の断続とを行う変速制御装置であって、

前記変速制御装置へ制御内容を伝えるスイッチ部と、

前記スイッチ部に設けられ、操作力が加えられる第 1 操作面と、

前記スイッチ部に設けられるとともに前記第 1 操作面と離間して配置され、前記第 1 操作面に加えられる操作力と反対の方向の操作力によって操作される第 2 操作面とを備え、

前記スイッチ部は、前記第 1 操作面及び第 2 操作面に操作力が加えられていない場合に所定の状態に復帰し、

前記スイッチ部が、前記ハンドルグリップの基部の下側から前側までの間の位置へ配置されたことを特徴とする変速制御装置。

【請求項 2】

前記スイッチ部は、

前記変速ギヤの切替におけるシフトアップを行わせる場合に操作されるシフトアップスイッチと、

前記シフトアップスイッチと対向して配置され、前記変速ギヤの切替におけるシフトダウンを行わせる場合に操作されるシフトダウンスイッチと
を有することを特徴とする請求項 1 に記載の変速制御装置。

【請求項 3】

前記スイッチ部は、前記第 1 操作面を有する第 1 スイッチと、前記第 2 操作面を有する第 2 スイッチとを具備するシフトスイッチであり、

前記変速ギヤの切替におけるシフトアップを行わせる場合は前記第 1 スイッチが操作され、前記変速ギヤの切替におけるシフトダウンを行わせる場合は前記第 2 スイッチが操作されることを特徴とする請求項 1 に記載の変速制御装置。

【請求項 4】

前記スイッチ部が操作された場合に前記変速ギヤの切替が行われるセミオートマチックトランスミッション方式と、前記スイッチ部が操作されなくとも前記エンジンの回転数に応じて前記変速ギヤの切替が行われるフルオートマチックトランスミッション方式とを、
前記スイッチ部が所定の時間以上継続して操作された際に切り替える変速方式切替部を有

することを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の変速制御装置。

【請求項 5】

前記シフトアップスイッチが操作された場合に前記シフトアップが行われるとともに前記シフトダウンスイッチが操作された場合に前記シフトダウンが行われるセミオートマチックトランスミッション方式と、前記シフトアップスイッチ及び前記シフトダウンスイッチが操作されなくとも前記エンジンの回転数に応じて前記シフトアップ及び前記シフトダウンを行わせるフルオートマチックトランスミッション方式とを、前記シフトアップスイッチ及び前記シフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを特徴とする請求項 2 に記載の変速制御装置。

【請求項 6】

前記スイッチ部が前記ハンドルグリップの長手方向へ突出して配置されたことを特徴する請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の変速制御装置。

【請求項 7】

前記第 1 操作面及び第 2 操作面は、乗員の指によって操作可能であることを特徴とする請求項 1 に記載の変速制御装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

【課題を解決するための手段】

本発明の第 1 の特徴は、アクチュエータを制御することによって、複数段の変速ギヤを備える多段シフト機構の変速ギヤの切替と、前記変速ギヤの切替時にクラッチによるエンジンからの駆動力伝達の断続とを行う変速制御装置であって、前記変速制御装置へ制御内容を伝えるスイッチ部と、前記スイッチ部に設けられ、操作力が加えられる第 1 操作面と、前記スイッチ部に設けられるとともに前記第 1 操作面と離間して配置され、前記第 1 操作面に加えられる操作力と反対の方向の操作力によって操作される第 2 操作面とを備え、前記スイッチ部は、前記第 1 操作面及び第 2 操作面に操作力が加えられていない場合に所定の状態に復帰し、前記スイッチ部が、前記ハンドルグリップの基部の下側から前側までの間の位置へ配置されたことを要旨とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明の第 1 の特徴にあつては、スイッチ部がハンドルグリップの基部の下側、ハンドルグリップの基部の前側、及びこれらの間の任意の位置、つまり運転手が親指及び人差指をハンドルグリップから離さずに操作できる位置へ配置される。これにより、運転者はスイッチ部を迅速に操作することができ、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。なお、ここでいう棒状のハンドルには、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが独立したセパレートハンドル、左手により握られる部分と右手により握られる部分とが一体化されたバーハンドル、一部分が湾曲しているハンドルも含まれ、ハンドルグリップの基部の前側とは、車両の進行方向側、換言すれば車両の運転者とは反対側を指す。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明の第2の特徴は、本発明の第1の特徴において、前記スイッチ部が、前記変速ギヤの切替におけるシフトアップを行わせる場合に操作されるシフトアップスイッチと、前記シフトアップスイッチと対向して配置され、前記変速ギヤの切替におけるシフトダウンを行わせる場合に操作されるシフトダウンスイッチとを有することを要旨とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

本発明の第2の特徴にあつては、ハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置へ配置されるスイッチ部がシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを有する。これにより、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを迅速に操作することができ、さらに、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

本発明の第3の特徴は、本発明の第1の特徴において、前記スイッチ部が、前記第1操作面を有する第1スイッチと、前記第2操作面を有する第2スイッチとを具備するシフトスイッチであり、前記変速ギヤの切替におけるシフトアップを行わせる場合は前記第1スイッチが操作され、前記変速ギヤの切替におけるシフトダウンを行わせる場合は前記第2スイッチが操作されることを要旨とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本発明の第3の特徴にあつては、ハンドルグリップの基部の下側から前側までの任意の位置へ配置されるスイッチ部がシフトスイッチを有する。これにより、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトスイッチを迅速に操作することができ、さらに、シフトスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

本発明の第4の特徴は、本発明の第1乃至第3の特徴において、前記スイッチ部が操作された場合に前記変速ギヤの切替が行われるセミオートマチックトランスミッション方式と、前記スイッチ部が操作されなくとも前記エンジンの回転数に応じて前記変速ギヤの切替が行われるフルオートマチックトランスミッション方式とを、前記スイッチ部が所定の

時間以上継続して操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを要旨とする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

本発明の第4の特徴にあっては、スイッチ部が一定時間以上継続して操作された際に変速方式の切替えが行われる。これにより、運転者は変速方式を切り替える場合においてもハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにスイッチ部を迅速に操作でき、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

本発明の第5の特徴は、本発明の第2の特徴において、前記シフトアップスイッチが操作された場合に前記シフトアップが行われるとともに前記シフトダウンスイッチが操作された場合に前記シフトダウンが行われるセミオートマチックトランスミッション方式と、前記シフトアップスイッチ及び前記シフトダウンスイッチが操作されなくとも前記エンジンの回転数に応じて前記シフトアップ及び前記シフトダウンを行わせるフルオートマチックトランスミッション方式とを、前記シフトアップスイッチ及び前記シフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に切り替える変速方式切替部を有することを要旨とする。本発明の第5の特徴にあっては、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの両方が同時に操作された際に変速方式の切替えが行われる。これにより、運転者は変速方式を切り替える場合においてもハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにシフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチを迅速に操作でき、さらに、シフトアップスイッチ及びシフトダウンスイッチの操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

本発明の第6の特徴は、本発明の第1乃至第5の特徴において、スイッチ部がハンドルグリップの長手方向へ突出して配置されたことを要旨とする。

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

本発明の第6の特徴にあっては、スイッチ部がハンドルグリップの長手方向に突出して配置される。これにより、運転者はハンドルグリップを握ったまま親指及び人差指を離さずにスイッチ部を迅速に操作でき、さらに、スイッチ部の操作時における車体や運転者の安定性の低下を防止できる。

本発明の第7の特徴は、本発明の第1の特徴において、前記第1操作面及び第2操作面が、乗員の指によって操作可能であることを要旨とする。